



秋田の くすり 今昔物語

2014 2/1 ~ 4/6

後援 秋田県医薬品卸業協会／秋田県病院薬剤師会／
一般社団法人 秋田県医師会／一般社団法人 秋田県医薬品配置協会／
一般社団法人 秋田県薬剤師会
展示協力 株式会社 ツムラ／株式会社 龍角散 (50音順)



秋田県立博物館

入館無料

〒010-0124 秋田市金足鶏崎字後山 52

Tel. 018-873-4121 Fax. 018-873-4123

ホームページは「秋田県立博物館」で検索

月曜休館 (月曜が祝・休日の時は次の平日が休館)

開館時間 9時30分～16時

(4月1日からは16時30分まで)



私たちの身の回りには、実に多くの種類の「くすり」があふれています。「くすり」の歴史、それは病気との戦いの歴史ともいえ、数々の経験の積み重ねにより、秋田においてもさまざまな「くすり」や病気に関する知恵が育まれてきました。この展示では、江戸時代以降の秋田の「くすり」にまつわる物語をお届けします。



久保田城下絵図（館蔵）

久保田城に薬園？

江戸時代後期には久保田城の北西部の堀端に薬園がおかれており、藩として薬の製造を推進していました。生薬の実物標本で、藩で使われた薬を再現します。

また、「龍角散」はもともと秋田藩の家伝薬だったと伝えられ、秋田出身の藤井家が売り広めました。



升屋薬局錦絵（館蔵）

老舗薬局の風景

近代になると、現在の私たちにもなじみ深い「薬局」が広がって、薬の普及が進みます。古い看板からは、当時の薬の流通の状況などをうかがい知ることができます。かつての薬局の店頭風景を一部再現して、ちょっと昔の雰囲気をお届けします。



センブリ

秋田の自然の恵み

腹痛に効くセンブリやゲンノショウコなど、秋田の山野に自生する植物の中には、薬用資源として有用なものも多く見られます。標本や写真で、昔から薬として利用されてきた植物を紹介します。

キッズファーマシー

日時：3月23日(日) 10時～15時

対象：4歳～中学生 定員：午前・午後各50名

Let's 薬剤師体験！キッズの皆さんの疑問や質問に薬剤師さんがお答えします。実験をしたり、実際に模擬薬を使ってお薬を作る体験をします。体験をとおして、お薬に関する知識を深めましょう！すべてのコースをクリアした人には、「こども薬剤師認定証」を進呈します。

参加無料。3月20日までに、電話、FAX、E-mailで、氏名・連絡先を添えて、博物館にお申し込み下さい。定員になり次第締め切ります。

